

生体防御検査学特論 (Advance of Biodefense Examination)

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
星野真理	1年次前期	選択	2	30	講義	あり	巻末掲載	可
授業概要 (内容と進め方) 及び課題に対するフィードバック方法	生体防御検査学特論では、免疫学・微生物学に関する理解と知識を深める。とりわけ、微生物に対する主要な抗原特異的な獲得免疫応答について、その感染防御に関与する分子制御機構、また医療への応用についても学修する。課題に対するフィードバック方法/レポートに対して討論するほかコメントをつけて返却する。							
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー④「臨床検査技師の役割を探究し、臨床検査学分野の高度な実践者、教育者及び研究者として社会に対して責任を果たし、貢献できる。」及び⑤「自ら積極的に臨床検査学の課題を探究し、主体的に解決しようとする能力と研究的視点を備え、科学的探究心を持ちながら継続的に研究を遂行できる。」の達成に寄与している。							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	1. 宿主・微生物に関連した、免疫学の基本的な概念について説明できる。 2. 免疫学の応用面について説明できる。 3. 免疫学の詳細な分子機構について説明できる。							
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	第1回～第15回事前学習：事前に計画されている単元について予習を行っておく/教科書の関連部分をあらかじめ読んでおくこと (各30分) 第1回～第15回事後学習：講義内容で不明な点は、講義終了直後もしくはオフィスアワーを利用して質問するなどして明確にするよう努める/教科書・配布資料で復習を行うこと。(各30分) ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間 (2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回) (1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回) (1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回) を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。							
授業計画	第1回	免疫応答の特徴と概要					星野真理	
	第2回	T細胞に対する抗原提示					星野真理	
	第3回	腫瘍組織適合遺伝子複合体分子の機能					星野真理	
	第4回	免疫受容体1					星野真理	
	第5回	免疫受容体2					星野真理	
	第6回	免疫受容体へのシグナル伝達1					星野真理	
	第7回	免疫受容体へのシグナル伝達2					星野真理	
	第8回	T細胞の活性化1					星野真理	
	第9回	T細胞の活性化2					星野真理	
	第10回	CD4陽性エフェクターT細胞の分化と機能1					星野真理	
	第11回	CD4陽性エフェクターT細胞の分化と機能2					星野真理	
	第12回	CD8陽性エフェクターT細胞の分化と機能1					星野真理	
	第13回	CD8陽性エフェクターT細胞の分化と機能2					星野真理	
	第14回	サイトカインの概要					星野真理	
	第15回	免疫学の医療への応用 ワクチン・アジュバント					星野真理	
評価方法 評価基準	レポートで評価する (100%)							
教科書	『分子細胞免疫学』 エルセビアジャパン			参考書等		必要があれば教員が資料を配布する		
学生へのメッセージ	生体防御検査学は医療において非常に重要である。免疫学的に主要な学修を行うので、授業中に積極的に発言するよう心掛けること。							